
忘れすぎた女

苺大福

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れすぎた女

【Zコード】

N1053K

【作者名】

苅大福

【あらすじ】

忘れすぎた女の数奇な運命を短編で
描いてみました。良かつたらご覧ください。
ぜひ感想お待ちしています。

忘れすぎた女

「はあ・・・昨日夕飯何を食べたかも覚えてない。」

女は深いため息をついた、まだ30代前半だというのに、この物忘れの激しさに女は悩んでいた。

女は今夜の夕飯に何を作ろうか迷っていた。
女には結婚して5年目の夫がいるが近頃は倦怠期を迎えていた。暇さえあれば喧嘩になってしまふ。

「今日は奮発してお寿司を取ろう。」

女は喧嘩の仲直りのつもりで夫にお寿司を取る決心をした。女は夫が仕事から帰つてくる時間を見計りつて受話器に手を伸ばした。

「すいません〇〇寿司ですか？特上寿司ふたつお願ひします。」

受話器の向こうで店員が愛想よく対応している。
それからじぱりくすると夫が仕事から帰ってきた。

「ただいま」

なんか少し疲れた様子に見える。女は夫に声をかけた。

「おかえりなさい！あなた今日は奮発して！」馳走よ。」

夫は諦めた表情で言った。

「お寿司だろ？しかも特上の？」

女は不思議なそうな顔して夫に聞いた。

「なんでわかったの？」

夫は困惑しながら言った。

「ここ一週間ずっと寿司を注文してるんだ。メモに書いてあちこちに貼っているがお前は見もしない。俺もこの不景気で給料も安くなったし、お前の病気の治療費の為に家を売つてこの市営住宅に引っ越ししてきたんだろ？金もないのに毎日毎日5000円もする寿司を二つも頼みやがって！」

女は少し怒り気味で言った。

「病氣つて何よ！私は病氣じゃないわ！ボケ老人にみたいに言わないでよ……」

そして次の日の夜……

「はあ……昨日夕飯何を食べたかも覚えてない。」

女はいつものように深いため息をついた。

「そうだ今日は奮発してお寿司を取ろうつい。」

女はいつものように受話器に手を伸ばした。

注文を終えると女はなんだか急にトイレに行きたくなり、かけこもうとした時だった。

「『わやああああああああああああああああ

物凄い悲鳴をあげた。

トイレの便器にもたれかかるように夫が死んでいた。腹に包丁が刺さつてあたり一面血に染まっていた。

女は茫然としながら部屋に戻った。

そして再び悲鳴をあげた。

「『わやああああああああああああああああ

女がそこで見たものは・・・

自分自身の死体だった。部屋の布団の上でタオルで首を締められ死んでいたのだ。

昨日の晩実は惨劇が起きていたのだ。喧嘩の果てに夫は女の首を絞めて殺し、その後トイレで自分の腹に包丁を刺して自殺していた・・・

女は自分が殺された事も忘れていた・・・

部屋に残されたのは無残な遺体がふたつ・・・
静かな夜の出来ごとだった。

(後書き)

読んでくれてありがとうございました。
もし余暇でしたら感想もお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1053k/>

忘れすぎた女

2010年10月21日22時28分発行